

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 31

2017年1月発行

秋季企画展&講演会

植田家にのこる浮世絵っ!?

関西文化の日&コンサートイベント

「植松灯籠の日&旧家で Bossa」

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十五)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

植田家の
昔のくらしの道具365日
いちねん

平成28年度 冬季企画展

2017年
1月5日(木)～3月5日(日)

休館日：火曜日、1月11日(水)～2月13日(月)

○期間中のイベント
1/15 こどものためのお茶会
2/26 旧家で楽しむ落語会
1月～3月
連続講座「会所(かいしよ)」(9:30)

【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで)
【観覧料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅
大阪府八尾市植田町1-1-25 <http://kyu-uedakejutaku.jp/>

平成28年度 冬季企画展

「植田家の昔のくらしの道具365日」

2017年1月5日(木)～3月5日(日)

一年(365日)の四季の中で活躍する昔のくらしの道具を展示しています。

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 秋季企画展&講演会
「植田家にのこる浮世絵っ!？」
- 6 こどもガイド体験講座(冬)
- 7 冬季講座
「古文書に見る植田家」
- 8 関西文化の日&コンサートイベント
「植松灯籠の日&旧家でBossa」
- 10 旧家で愉しむ食事会
- 11 四会所だより(11)
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③①
- 13 河内の古民家めぐり
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十五)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

《旧家で Bossa》^{ボッサ}(終演後の様子)

毎年開催する八尾市在住の音楽家によるコンサートは今年で8回目を迎えた。今回は「旧家で Bossa」と題し、ランプのあかりが灯る中、軽快なボサノバの音楽が旧家の建物に鳴り響いた。関連記事は、本誌 8-9 頁に掲載。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

2016年度 秋季企画展

植田家にのこる 浮世絵っ!?

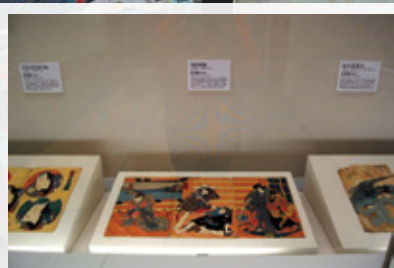
2016年10月22日(土)～12月23日(金)



月岡耕漁《日本歴史抜撰 美濃樵夫》

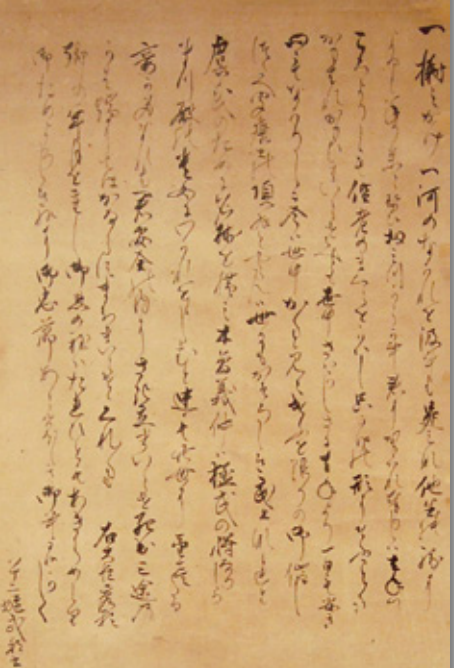


豊原国周《八犬伝 芳流閣の場》

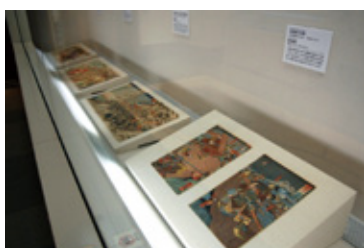


三代 歌川豊国《児雷也豪傑譚》

秋季企画展「植田家にのこる浮世絵っ!？」
浮世絵は江戸時代に成立した絵画のひとつとして、色鮮やかで、大量に刷ることのできる版画（錦絵）がよく知られていますが、浮世絵には美人画、役者絵、芝居絵、歴史絵、名所絵、武者絵、相撲絵など、実に様々なジャンルがあり、その表現の多様性とともに時代の風俗（流行、文化、くらしなど）を知ることができます。江戸時代から続く旧植田家住宅にも、江戸と上方（大坂）の浮世絵二十数点が伝わっています。その多くは歌舞伎などの舞台を描いた役者絵と勇ましい武者絵がほとんどですが、中には玩具絵と呼ばれる遊ぶ浮世絵もみられます。また今回調査によって新たに発見された肉筆浮世絵一点も初公開し、これら貴重な浮世絵を通して、その発想力や表現に「えっ!？」と驚くだけでなく、植田家にこれらのこされた意味を考えるというのが本企画展のテーマでした。
展示ではそれぞれジャンルや絵師、時代ごとにその特徴や違いが分かるようになっており、明治期の月岡耕漁の歴史絵《日本歴史抜撰 美濃樵夫》と、同時代の豊原国周による「八犬伝」や「水滸伝」の役者（見立て）絵は、同じ浮世絵でも対照的です。また近年、猫の絵などよく



二代春貞《美人図》肉筆浮世絵



国芳の浮世絵も展示



「画帖」の浮世絵（江戸絵入り）



上方（大坂）の浮世絵



切り抜いて遊ぶ!? 玩具絵

知られる歌川国芳の作品も植田家には所蔵され、その歴史絵や武者絵から幅広い画業が窺えます。また豊国の作品は最も点数が多く、初代から三代までの作品がみられます。状態は様々ですが、ほとんどのものは3枚続（三枚一組）で揃い、色彩もきれいに残っています。

今回、目玉の二代春貞《美人図》は、新たに軸装した状態（発見時は本紙のみの状態）で展示をしました。この肉筆浮世絵については、本図に描かれた手紙の文面と、賛の内容から、当時武士の妻の鑑とされた木村重成の妻を描いたものではないかと推測ができます。八尾に少し縁のあるこの絵が植田家にのこる意味も新たに感じながら、今に伝えられた浮世絵が語る植田家の歴史と浮世絵の魅力に、「えっ!？」という意外な発見がありました。

（旧植田家住宅学芸員 安藤亮）

10/30 講演会「浮世絵―上方役者絵の話―」

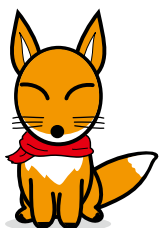
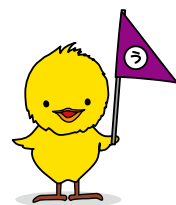
企画展に関連し、あべのハルカス美術館主任研究員の北川博子氏を迎え、講演会「浮世絵―上方役者絵の話―」を旧植田家住宅の座敷で行なった。日本での上方浮世絵研究の第一人者である北川氏は、海外に多くのこる浮世絵の調査研究をされ、本講演会では植田家の上方絵についても、「これまでに見たことのないものもある」と語られ、その研究の可能性を広げられた。

講演会では、浮世絵について基礎的な話から始められ、徐々に参加者は浮世絵に興味をひきつけられていった。普段聞くことのできない現代の浮世絵の研究の現状や評価などの話から、北川氏独自の観点でその魅力についてたっぷり語っていただいた。

最後に、展示中の浮世絵について一点ずつ解説と評価をされ、特に肉筆浮世絵については「現在肉筆浮世絵自体は研究もされて多く見つかっているが、二代春貞の作品そのものについては点数も少なく貴重なもの」と語られた。今後の浮世絵研究において植田家所蔵のものが役立つ日はそう遠くはないだろうか。



こどもガイド



きゅうちゃん

たいけんこうざ 体験講座 (冬)

12/10(土)

こどもガイド体験講座(冬)

こどもを対象に旧植田家住宅の建物や道具について学び、ガイドと昔のくらしを体験してもらう「こどもガイド体験講座」は年に二回、夏と冬に実施しています。今年の夏は、水鉄砲作りに挑戦してもらいましたが、今回は冬ということで、年末の大掃除から新年を迎える準備にちなんで「障子の張替え」をしました。

ガイド体験では、少しだけ植田家について勉強した後、早速建物の見学をしました。普段よく来る子や初めての子も、ここは八尾市の大切な場所のひとつということとをガイドを通して学んでもらえた様子でした。また見るもの聞くこと、ほとんどのことが未知のもので、目をきらきらさせて、熱心に話を聞いてくれました。

最後の「昔のくらし体験」は、障子のある家が少なくなった昨今、あまりピンとこない障子の張り替えですが、これもきれいに仕上げ、何ごとも楽しんで取り組む姿勢を子どもたちから学びました。

(学芸員 安藤亮)



発見！植田家の家紋



襖絵と茶道具の欄間を案内



まずは座って植田家の勉強



障子の張替えを体験中



植田一郎さんの肖像と対面



展示室で会所屋敷を探す

古文書に見る植田家



古文書の取り扱いや作業方法を解説する北林氏



植田家の酒造業との関わりを古文書から言及



質疑応答では植田家の歴史の謎にさらに迫る



別室では講座で言及した本物の古文書資料を特別に公開

12月18日(土)、旧植田家住宅の座敷にて、八尾市史編纂室の北林千鶴氏を迎えて、冬季講座「植田家に見る古文書」を行いました。講座は、現在八尾市で行なわれている市史編纂事業にも関連し、八尾の歴史や植田家に関心のある多くの方が参加をされました。

本講座では、特に「古文書」そのものについての基礎的な話をまず始めにしっかりと聞くことができ、普段あまり古文書に馴染みのない初心者にとっても安心の内容でした。取り扱いに関するきめ細やかな配慮や作業工程のお話だけでも、大変な苦勞がそこにあることがわかります。もちろんその中で明らかにすることがいくつもあり、その繰り返しの先にある技術の向上や成果物にはたくさんの人の喜びがあると思います。

その地道な成果(経過)の一つとして、今回

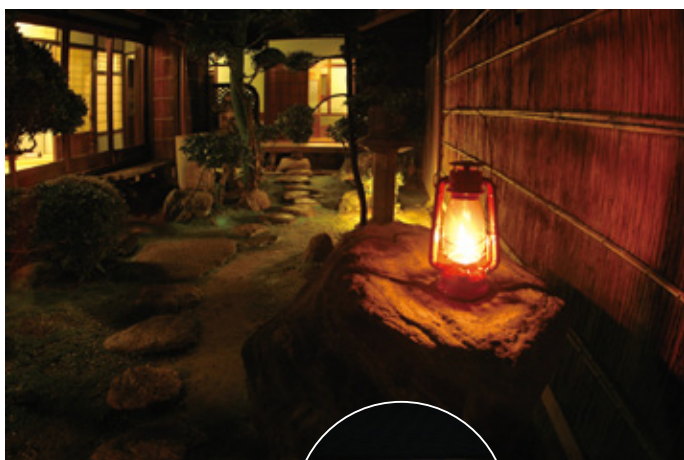
は「植田家文書」から植田家のまた新たな一面を知ることができました。江戸時代後期に植田家が教育や質屋業などに関わっていた事はこれまでに分かっていましたが、酒造業に関わりがあったということを今回北林氏によって明らかにされました。ただ残念ながら現在に至るまでのその後の資料や道具類などは見つからず、その事実を古文書が伝えるまでとなりました。

古文書は現在も様々な場所に眠っており、それを呼び起こす人がいなければ無くなってしまう事もあります。もし、そのような眠った古文書があれば、ぜひ紐解いてもらえればと思います。それが新たな歴史の一面となります。

(学芸員 安藤亮)

関西文化の日

(夜間開館)



旧植田家住宅の灯籠に灯りが灯る



←影絵も投影

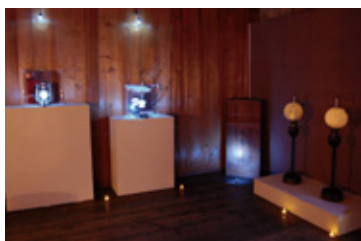
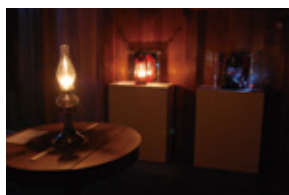
うえまつ

どろろ

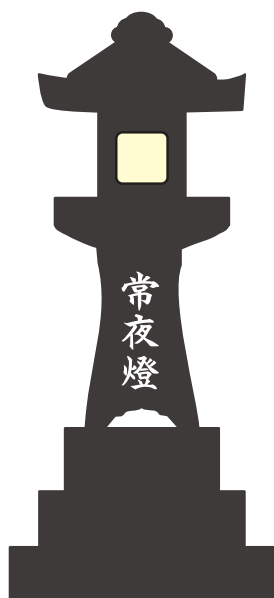
ひ

植松灯籠の日

2016.11.19



+ ランプ (灯り) のミニ展



次回「植松灯籠の日」は5月13日(土)に開催予定(展示は未定)。

は、時代を超えた奇跡的な出会いとなり、訪れる人を温かく迎え入れた。

11月の関西文化の日(無料期間)では、灯籠に灯りを灯し、夜間見学のできる「植松灯籠の日」を開催。年に二回あるこの企画では、文化遺産である常夜燈(植松灯籠)の啓発とともに、夜の旧植田家住宅を楽しむ仕掛けづくりにも取り組んでいる。毎度お馴染みの「影絵」の展示もそのひとつであるが、今回は新たに「灯り」をテーマにしたランプのミニ展示をこの日限定で行なった。

[協力: (株)WINGED WHEEL]

2016.11.25

コンサート 八尾の音楽家

旧家で

きゅうか

ボッサ

Bossa

旧家に響くボサノバの音楽

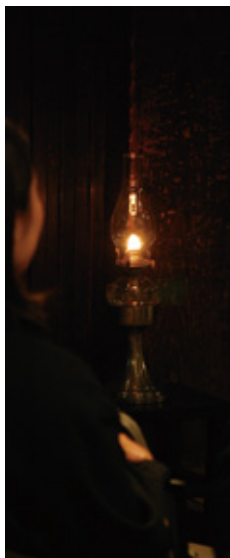


八尾市在住の音楽家による旧家を舞台にしたコンサートは今回で8回目を迎え、リオ五輪に沸いた2016年、「旧家でBossa」を11月25日(土)に開催。これまでのクラシックからJAZZに加え、新たなボサノバの音楽が旧家に響き渡った。

多彩な変化をみせる音楽に彩りを添えるランプの演出も今回新たな試みであった。演奏は新田千穂美氏のヴォーカルと、沼津崇^{たかし}氏のギター、石倉理^{いしくら}氏の変幻自在のサククス、フルート、ギターに、全体のリズムを支える橋田正和氏のドラムとパーカッションが、それぞれ個性を発揮しながらも調和し、会場を大いに盛り上げた。また時にはしっとりとした場面もあり、ランプの緩やかな灯りがその雰囲気盛り立てた。

アンコールでは、会場も一緒に参加し、配られた楽器を鳴らしつつ、リズムと心のタイミングを合わせて楽しく歌った。「ボサノバ」とは「新しい感覚(傾向)」という意味の言葉である。旧家とこの新しい音楽との出会いは、まさに新しい感覚を伝えるものであった。その感覚を大切に守ることはまた文化は育むことにつながるだろう。次年度もまた新たな展開に期待したい。

ランプとの共演!



なにわの伝統野菜と植田家に伝わる食器を使用する

旧家で愉しむ 食事会

2016年11月20日(日) 18:45～



かまどで炊飯中



関西文化の日・二日目の11月20日(日)は、
人気企画「旧家で愉しむ食事会」を開催。
植田家の畑で栽培したなにわの伝統野菜や
河内の食材を使用した料理を贅沢にも植田
家に伝わる食器でいただくというこの企画
も、今回で8回目となりました。また今回
は、なにわの伝統野菜を使った料理も提供
するお店「醸菜 松やま」(八尾市北本町)さん
に料理のご協力を頂きました。

恒例の夜間見学会では、多数の参加者が
あり、食事会を前に旧植田家住宅の話でお
腹(頭)をいっぱいにしてもらいました。実
際のお腹のほうは、準備中の場所やかまど
から届く夕飯のにおいで期待が膨らんで
いきます。予定の時間になり、いつもと異な
る雰囲気の数に座り、参加者はそれぞれの
ゆしみ方で食事をし、終始和やかな雰囲
気で時間が過ぎていきました。

貴重な文化財の中で、往時に使われてい
た食器を使い、伝統ある食材を用いた新鮮
で美味しい料理を堪能し、かまどで炊いた
ご飯も食べることができるとは至福の時
ではあります。同時にすればこれが日常
の風景であったのかもしれない。

(旧植田家住宅スタッフ)

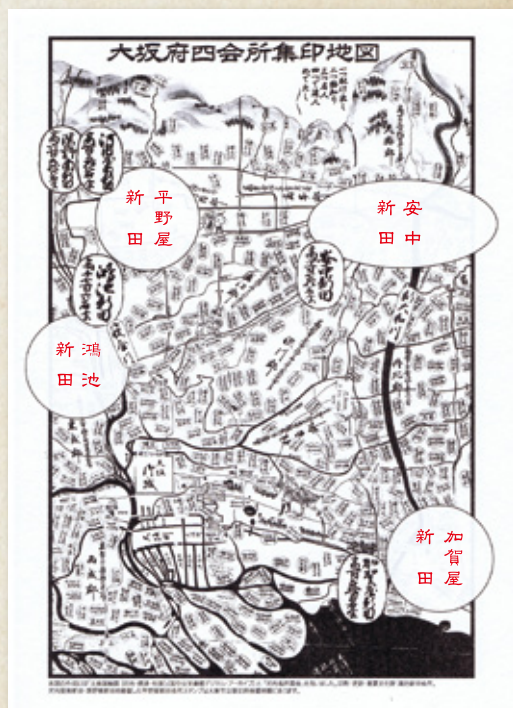


四会所だより (11)

平野屋新田会所を訪ねて

前号掲載の平野屋新田会所跡(大東市)に、今回大東市立歴史民俗資料館で開催中の特別展「よみがえる平野屋新田会所」(現在は終了)の見学とともに、四会所交流で訪れました。特別展では、学芸員の方に案内していただき、会所の歴史や展示資料について詳しく解説をしてもらいました。平野屋新田会所の建物は現在、残念ながらのこっていませんが(一部会所の敷地と蔵などの遺構を保存)、展示では往時の姿が浮き上がるように工夫がされ、建築や考古、民俗などの様々なアプローチでその姿を見ることができました。

会場をあとにした一行は、その平野屋新田の会所があった場所へ車で移動し、現地でも大東市教育委員会の職員の方に説明をしていただきました。資料館から現地までは車でおよそ5分〜10分ほどの距離にあり、周辺には旧大和川(深野池)の新田



大坂府四会所集印地図
(スタンプラリー用台紙)

※各所にて配布中!

跡や古い樋なども残されています。まちあ
るき等で利用するのも良いかと思います。
さて、会所跡はというと、周辺はすでに
住宅街となっていますが、その敷地の広さ
を感じることができ、米蔵や船着場などの
遺構(石群)を見ることが出来ます。往時
の姿を想像するための文化的価値のある
材料として、今後の活用にも期待が膨らみ
ます。この日はあいにくの雨模様でした
が、この雨が有数の石群を洗い流し、それ
ぞれが輝きを持って歴史を語っているよ
うでした。

(安中新田会所跡旧植田家住宅 安藤亮)

●大東市立歴史民俗資料館 (来ぶり四条2階)

場 所: 大東市野崎 3-6-1

交 通: JR学研都市線「野崎」駅下車、南東に徒歩約10分

開 館: 10時~20時

休館日: 第1・3火曜日

お問合せ: 072-876-7011 (電話)

※スタンプはこちらに設置しています。
「平野屋新田会所跡」にはありません。



●鴻池新田会所

場 所: 東大阪市鴻池元町2-30

交 通: JR学研都市線「鴻池新田」駅下車、
南東に徒歩5分

開 館: 10時~16時

休館日: 月曜日、祝日の翌日(土・日除く)

入館料: 大人300円、小・中学生200円

問合せ: 06-6745-6409 (電話)



●加賀屋新田緑地 (加賀屋新田会所)

場 所: 住之江区南加賀屋4-8

交 通: 地下鉄「住之江公園」駅下車徒歩15分
・市バス「南加賀屋四丁目」下車徒歩5分

開 園: 10時~16時30分

休園日: 月曜日、年末年始

入場料: 無料

問合せ: 06-6683-8151 (管理事務所)



なにわの伝統野菜 栽培日記

No.31



おまけ①「露天風呂」
こんな大根も
たまにできます…

「やっぱ井戸水はひと味がうなー」
「ええ水加減やんかいさー」



田辺大根
フェスティバル
挑戦



ちーん。

どっよ～ん

…惨敗

【あゝ残念!!】

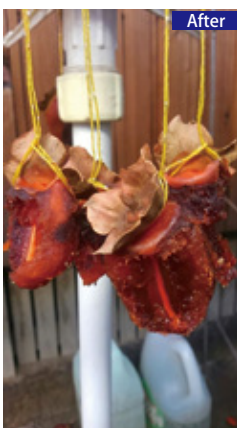
初出品から今まで、何かしらの賞をずっと頂いていたので、伸びかけていた鼻っ柱をへし折られました。…が、これも考え次第です。「無賞」は今まで頂いた事が無かったので、これは「何もないDE賞」を受賞したと都合よく考えることにして、また次回は必ず返り咲きます! <KAMA宣言>

おまけ②

年末に植田家の庭でとれた柿で「干し柿」をつくってみました。



正月前



正月後。だ、誰やねん

落穂拾い

I 今東光の董風 I (二十五)

文・伊東健

今年の十二支は酉^{とり}ですが、今東光作品の中でも傑作として名高い「闘鶏」は昭和三十二年(一九五七)年、『中央公論』二月号に掲載され、発表からちょうど六十年が経過し、干支でいえば、今年は同じ丁酉^{ひつとりゅう}となり周期がひと巡りしたという誠にめでたい年です。

「闘鶏」を執筆するのに二年を要したというのは、東光自身の言葉ですが、作品が『中央公論』に掲載される過程には、谷崎潤一郎の多大な尽力がありました。完成原稿が谷崎に渡るまで、一時、その原稿が行方不明になっていたということ、東光が転居した直後から天台院へ出入りしていた鈴木助次郎氏が書き残しています。

天台院へ伺^{うかが}うと先生は上機嫌で、「君の長い留守中にね、谷崎(潤一郎)先生がここへお見えになったんだよ。河内の風土がお気に入られた様子だね。うれしかったよ。僕^{ぼく}の書き上げた小説をお見せすると、しばらく黙読^{もくどく}されていたが、活字になってからゆっく

読ませてもらう、と仰言った。」

その原稿は秋になって新論社へ送られた。

(中略)

「でも何です? 心配なことって」と訊くと、「新論社へ送った原稿がどうなったか知りたんですよ。家の人は平気な顔してるけど、谷崎先生が活字にして是非読みたいっておっしゃってたし、本人も自信作らしいから、ひょっとして紛失したんじゃないかとそれが心配で」「じゃ新論社へ早速連絡しましょう。でもあの易者はよく中^{あた}るから、それと関係なしに見て貰^{もら}うのもいいですよ」

夫人は早速阿倍野へゆかれたらしい。次にお会^はいしたとき、晴々^{はれば}として、

「原稿は遅れるけれどもかならず返ってくるって言ってたわ。私の掌を見て、あなたは○○夫人と呼ばれる人だと、いきなりいったわよ(中略)」

後注すると、この時の原稿が、傑作「闘鶏」であり、後に中央公論に発表された。たぶん谷崎先生の御推挙によるものだろう、と先生が後で言われた。『引用・ミケンランジェロの無明』所収優情の人・今東光より(平成元年十二月十日、皆美社発行)

ちなみに文中の新論社とは、保田與重郎が主催していた雑誌『新論』の発行元で、東光の作品では昭和三十年七月に「八尾別当」を掲載していま

すが、この時期に倒産してしまったようです。また、引用部分の最後、東光が「谷崎先生の御推挙」としているのが、昭和三十一年十月五日付けに『中央公論』社の社長である嶋中鵬二氏に宛てた次の手紙のことだろうと推察されます。

(前略) 先般お預けしておきました今東光氏の原稿の件であります。があれは何とかして貴誌に載せて戴^{いた}く譯には行かないでせうか。出来れば十二月號あたりにもと存じますが時期は御都合で多少延びましても構ひません。(後略)

(谷崎潤一郎全集第二十六巻(昭和五十八年十一月十日、中央公論社発行)

昭和三十二年一月、「お吟さま」が直木賞受賞と決まり、話題性抜群となったタイミングを見計らい、晴れて二月号での掲載となるのでした。「闘鶏」発表から六十年とは、すなわち東光の直木賞受賞からも六十年。実は今年は没後四十年、来年は生誕一二〇年と今東光メモリアルイヤーとなります。まずは、酉年つながりで「闘鶏」の再読から始めませんか?



「闘鶏」(1957年、角川小説新書)

写真提供: 今東光資料館

【2017年2月～4月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」

// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展 示

2017年

◎1月5日(木)～3月5日(日)

企画展「昔のくらしの道具365日」

◎3月9日(木)～4月24日(月)

通常展「大和川付替え関連展示」

◎4月28日(金)～7月10日(月)

企画展「植田家の祈りと願い」(仮)

※日程は変更になる場合がございます

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

企 画

(詳しくはお問い合わせください)

◎2月

12日(日) 連続講座「会所(かいしょ)②～加賀屋新田～」

26日(日) 旧家で楽しむ落語会

◎3月

12日(日) 連続講座「会所(かいしょ)③～鴻池新田～」

平成29年度

◎4月

8日(土)「ぶらりまちあるき～玉串川編(高安・山本周辺)～」

※4月の予定は変更になる場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日

□ = イベント開催日

2 February

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3 March

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4 April

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

※4月の予定は変更になる場合があります。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休 館 日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入 館 料：一般200円(団体20人以上で100円)
高校・大学生100円(団体50円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
および介助者は無料

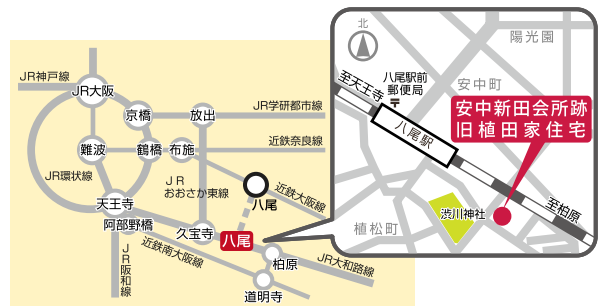
●お問い合わせ

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

